

心つないで

No. 6

発行

2011年4月14日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部〈本部長・金丸正樹〉

(ろっこう医療生協・本部内 Tel 078-802-3424)

4月12日～15日にかけて森本常務と上野組員活動支援担当の2人が、千葉先生の故郷・大船渡に支援に入りました。航空便で伊丹から花巻空港へ。そこから車で大船渡入りし、現地の様子を伝えてもらいました。〈以下、森本・上野レポートより編集〉

★ 大船渡市街や、「ちば内科診療所」は・・・(現地より届いた報告)



○12日、午後5時40分千葉先生と、ちば内科診療所師長の林さんと合流。先生のアパートに。6時から日没まで約30分、ちば内科診療所や大船渡市街を河口付近まで視察しました。

○だいぶマシになったそうですが、まだ潮や油(?)や埃臭さの混じったような臭いも。道のガレキは撤去されて、ほぼ開通しています。〈写真・←左〉



○13日、朝4時半頃に震度3がありました。揺れが長いです。今朝は、市街へ。ちば内科診療所は、すでに次の借り手のために改修工事に着手していました。〈写真・右→〉



○どの場所でも写真を撮るのものはばかられますが、記録として残してもらえるなら、と林さんはおっしゃってくれ、各地を案内してくれます。ご冥福をお祈りするばかりです。



○津波の時間で止まった時計〈写真・上↑〉

【2面につづく】

○陸前高田の風景。涙
が出てきます。(写真。
右)

現在までの義援金
(4/10現在)

1,348,538円

皆様のご協力、
本当にありがとうございます。(郵便口
座への振り込みも
どんどん届いてい
ます。追ってご報告
いたします。)



★ 相馬市の避難所は、今なお混乱と苦闘の連続 (大倉さんから届いた避難所の報告)

○組合員活動支援担当の大倉均さんは、福島中央市民医療生協への支援のあと、そのまま相馬市に移動し、現地の避難所となっている旧・相馬市立女子高等学校(廃校のあとを避難所に活用)にボランティア活動に入っています。

○当初は、500~600人の避難者が南相馬市などから集まっていました。そして、より安全で少しくつろげる福島市内のホテルに移行する予定でした。しかし、手違いでホテルの確保ができず、18ほどの小規模の旅館などに分散して移動するという行き先しかなかったとのこと。市長が来て経緯を説明し、18日までに移動先の希望をアンケートに記入して出すことに。中には、避難対象区域となっている南相馬市の自宅に帰るという選択肢を考える人も。

○現在、大倉さんは、避難所の本部となっている校門付近に滞在し、避難先の電話番号を調べてあげたり、必要な診断書の手配や、なくした運転免許証の相談など、細々としたお世話をしています。

○大倉さんは、来週18日に帰神の予定です。

被災地支援活動 報告集会

参加自由

無料

- とき 4月 23日(土)午後1時30分~2時30分
- ところ なだ組合員集会室 (灘診療所・西隣)
- 内容 被災地支援活動の報告

村上正治 理事長

千葉誠 医師 ほか

今後の取り組み方の提起